

4-*t*-オクチルフェノール (CAS no. 140-66-9)

第 1 段階生物試験

(1) 試験結果

25.3、82.3、250 $\mu\text{g/L}$ (実測値)のばく露濃度で試験を行ったところ、受精率、総産卵数、受精卵数、二次性徴、生殖腺体指数、肝臓体指数、雌の肝臓中ビテロゲニン濃度に統計学的に有意な変化は認められなかった。

雄の肝臓中ビテロゲニン濃度は、ばく露濃度の上昇と共に増加し、82.3 $\mu\text{g/L}$ 以上のばく露区において、統計学的に有意な高値が認められた。

(2) まとめ

今回の試験結果からは、メダカに対する有害性を示すことは示唆されなかった。

4-*t*-オクチルフェノールについては既存知見からエストロゲン作用を持つことが想定された。今回の試験結果において、死亡が認められない濃度範囲において、エストロゲン作用を示す雄の肝臓中ビテロゲニン濃度の高値が認められ、エストロゲン作用を持つことが確認された。

なお、今回の最高ばく露濃度 250 $\mu\text{g/L}$ は、平成 24 年度に実施された化学物質環境実態調査において検出された最高値 0.031 $\mu\text{g/L}$ の約 8,060 倍であった。

表 1-A 試験結果

濃度実測値 ($\mu\text{g/L}$)	試験個体数		死亡率(%)		全長(mm)		体重(mg)	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
対照区	12	12	0	0	38.1 \pm 1.2	36.5 \pm 0.5	664 \pm 73	578 \pm 29
25.3	12	12	0	0	37.0 \pm 0.9	37.8 \pm 0.5	608 \pm 31	625 \pm 55
82.3	12	12	8.3	0	37.9 \pm 0.6	37.0 \pm 0.2	630 \pm 44	599 \pm 16
250	12	12	0	0	37.4 \pm 0.4	36.7 \pm 0.5	626 \pm 21	605 \pm 10

表 1-B 試験結果(続き)

濃度実測値 ($\mu\text{g/L}$)	総産卵数 (eggs/female/day)	受精卵数 (eggs/female/day)	受精率 (%)	生殖腺体指数(%)	
				雄	雌
対照区	24.8 \pm 4.8	23.3 \pm 5.2	93.8 \pm 3.9	0.92 \pm 0.33	10.3 \pm 1.5
25.3	26.3 \pm 3.2	24.1 \pm 3.5	91.4 \pm 5.1	0.83 \pm 0.11	11.4 \pm 1.6
82.3	26.5 \pm 1.3	24.4 \pm 1.5	91.9 \pm 2.1	0.81 \pm 0.08	10.7 \pm 0.39
250	23.3 \pm 2.6	20.7 \pm 2.6	88.5 \pm 3.3	0.81 \pm 0.08	11.1 \pm 2.0

表 1-C 試験結果(続き)

濃度実測値 ($\mu\text{g/L}$)	肝臓体指数(%)		ビテロゲン濃度(ng/mg liver)		二次性徴	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌
対照区	2.6 \pm 0.50	4.2 \pm 0.63	1.6 \pm 0.8	3,740 \pm 699	104 \pm 3.45	0 \pm 0
25.3	2.1 \pm 0.16	4.6 \pm 0.82	3.2 \pm 2.2	3,710 \pm 617	99 \pm 4.06	0 \pm 0
82.3	2.6 \pm 0.10	4.1 \pm 0.58	5.6 \pm 1.9 *	4,380 \pm 1,350	105 \pm 7.67	0 \pm 0
250	2.9 \pm 0.28	4.5 \pm 0.29	11,400 \pm 3,040 *	5,290 \pm 2,030	98 \pm 8.51	0 \pm 0

表 1-D 試験結果(続き)

濃度実測値 ($\mu\text{g/L}$)	その他の所見
対照区	特になし
25.3	特になし
82.3	特になし
250	特になし

結果は平均値 \pm 標準偏差

有意差水準(** p <0.01、* p <0.05)

ndは未検出(ビテロゲン濃度の検出下限値は1ng/mg liver)

(-)は未測定

二次性徴：乳頭状突起を有する節板数

(EXTEND2010に基づく平成27年度第1回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会 参考資料2-5より抜粋)